

健康長寿について

新潟県刈羽村

介護予防システムの確立(役場周辺に福祉施設等が密集している)

1. 4年に1度の5地区合同敬老会の開催
2. 広範囲(35～85歳)での人間ドック受診体制
3. ユニークな健康づくり

集落対抗なわとび大会「100回跳んだら100万円」賞金付き



▲刈羽村役場にて

やっぱりここが大事

基本中の基本である「自分の健康は自分で守る」精神で、奇抜なアイデアで村民の身体を動かす事業展開をしていた。

自分達の地域にあった事業を取り入れるべきと感じた。

廃校の利活用について (JAPANサッカーカレッジ)

新潟県聖籠町

廃校となった中学校をサッカー専門学校として誘致(現在、県内外から380人の学生が集まっている。)

やっぱりここが大事

廃校校舎とはいえ、平坦地で交通アクセスの利便性、近くにはJリーグチームの練習場があるなど立地が好条件である。ひとつの学校が出来たことで、雇用・経済・人口増加等さまざまなプラス作用が働いていることが見て取れた。

この効果を目の当たりにし、刺激となった。



▲聖籠町役場にて



▲サッカーグラウンドにて

学んできました

本村の義務教育・高齢者対策・跡地利用を活かした村民の福祉の向上と、今後の議会活動に資することを目的に、長野県信濃町、新潟県刈羽村、新潟県聖籠町を視察研修してきました。

義務教育学校について

長野県信濃町

子どもの育ちや学びの連続性に着目した小中一貫教育体系の構築

1. 高等部の学力向上
2. 思いやりや感謝の心を育てる教育
3. 上級生との部活動交流



初等部（1～4年生）と高等部（5～9年生）に分け、人事配置と小中教職員の乗り入れをしやすいとしている。初等部では、豊かな自然の中での体験学習を通して、基本的な学習習慣と人間関係力を培うことを目的としている。

高等部では、教科担任制で専門的な学びを通して、主体的な研究力を培うことを目的としている。

夢の実現に向けて進路を切り拓く力を培うような学びの充実を図る、特色ある教育課程により、9年間を見通した系統立てた教育となっている。

やっぱりここが大事

「過疎だから統合」ではなく、年齢の幅広い生徒達がいることで、高等部も初等部も「相乗効果」が生まれている。

9年間を見通したカリキュラムはこれからの教育の在り方が示されており、本村でも取り入れることを検討する意義があると感じた。



▲信濃町立小中学校にて